

WBF Alerting Policy

序文

1. 目的は全ての WBF の試合に適用される統一された WBF の方針を提供することである。
2. 各ゾーン組織や NBO が定めるアラート規程を無効にするものではない。
3. 完全な公開が重要であるが、WBF の試合の参加者は相当程度自身を保護することを期待されている。
また、参加者はブリッジの規則の条文と精神を遵守することを期待されている。
4. この規程は可能な限り簡潔に作られているが、参加者は疑義がある場合はアラートすることを期待されている。(注：スクリーンが使用されている場合、片側でアラートされ、反対側でアラートがなかったとしても必ずしも反則行為とはならない。)

規程

下記のコールはアラートすべきである。

1. アーティフィシヤルなビッド。
2. 特別な意味を持つ、又はパートナー間の特別な合意に基づく、あるいは特別な合意につながるコール（ビッド、パス、ダブル、リダブル）。
プレイヤーは、相手方が合理的にその意味を理解できると期待される場合か、管轄団体の規程に基づき情報開示を行っている場合を除いては特別な合意に基づくコールやプレイを行ってはならない。ブリッジの規則 40 条 B 項参照。
3. オープニングビッドやオーバーコールに対するノンフォーシングのジャンプシフトレスポンス及び 1 の代のスーツのオープンに対するアンパストハンドによるノンフォーシングのニュースーツレスポンス。

プレイヤーはこの規程の条文及び精神を尊重しなければならない。

PSYCHIC BIDDING GUIDELINES

パートナー間の了解に基づくサイキック・コール及び類似の行為について

2017 年版ブリッジの規則では「パートナー間の了解に基づいていない」という条件でプレイヤーがサイキック・コールを行うことを認めている。あるコールがパートナー間の了解に基づいている場合は、そのコールはサイキックとは見なされない。WBF 法規委員会の見解では、あるコールをしたプレイヤーのパートナーが、それがサイキックの可能性があると思える程度に発生頻度が高い場合には、実際にその可能性を考慮に入れた行動を取らなかったとしても、パートナー間に了解事項が存在すると見なされる。WBF の行動規範 (Code of Practice) にも関連する記述があるが、このような了解事項は事前に公開されていなければならない。

上記のような了解事項は、WBF の後援により行われる世界選手権その他の試合においては下記の要件に従って公開されなければならない。

- ① サイキック・コールが予測されるか又はシステムにより保護されるような了解事項は禁止されている。例としては有利なバル関係のサードハンドではすべての手でオープンする場合などがある。
- ② 場合によっては通常のコールの意味を著しく逸脱することがあり、逸脱の内容が予測できる場合もシステムカードに公開しなければならない。
公開の対象となる了解事項には、明示的な了解事項の他にペアとしての過去の経験や相互に共有する知識で対戦相手が知り得ないものも含まれる。これらの了解事項はシステムカードに特殊なディフェンスが必要なコンベンションとして記載しなければならない。また補足シートにはこれらの逸脱が起こりうる状況やこれに関連してパートナー間で予測される行動に関する完全な説明が記載されなければならない。十分な公開が行われれば、このような了解事項は全てのカテゴリーの試合で許容される。
- ③ ランダムなサイキックは、パートナーがサイキックの可能性を認識する度合いが対戦相手より高くないという条件で、ブリッジの規則により許容される。
- ④ ディフェンダーのカーディングに関するサイキックについても、前項と同様の原則が適用される。(システムカードに記載のカーディングと異なるカーディング)

WBF システム委員会

2023 年 3 月